

第 34 号

## バドミントン しずおか

発行 平成 22 年 9 月 発行所 静岡県バドミントン協会 編集者 広報委員会 印刷 富士ニュース社印刷事業部

## あいさつ

静岡県バドミントン協会  
会長 上野 忠

世界各地で異常気象による被害が発生し、自然の猛威の前に人類はその智慧を生かす

ことが出来ないでいます。

日本国内も連日の猛暑に熱中症で数万人が倒れるなどまさに異常であり、科学の進歩が逆に禍いをもたらしているようです。全てに表があれば裏があるように、関かんけいを常に認識しなければと思っています。本年度国体東海地区予選が 8 月 21、22 日岐阜県にて開催されましたが、選手のみなさまの健闘むなく惜敗しました。あと一歩かと思えます。反省材料を糧として、来年を目指して下さい。

古道のトンネルに入ると屋外の暑さも忘れる別天地であります、居心地の良さに長居せず前に進みましょ

う。国体開催から 7 年が過ぎようとしている今日ですが、長い暗いトンネルの出口が見えています。小学生で期待された芹澤妃那子、小川桂汰選手など県外強豪中学校へ入学され、レギュラーとして活躍しています。その勇氣と努力は大いに讃えべきかと思えますが、一日も早く県内にその受け皿校の出現を期待するところです。

選手の強化策の中では基本の練習を充実させ、目標は高く、練習即試合であることを前提に努力を重ねる事こそ大事かと思えます。

扱て、去る 5 月 27 日本県アマチュアスポーツ界の最高顕彰であります県体育協会体育章「功労章」に、副会長であります石川博義氏が受章の榮に浴されました。氏の多年にわたるバドミントン競技への貢献が認められての受章であり、誠におめでとうございます。また角谷泰子、河原崎仁両氏が日本バドミントン協会よりその実績が評価され「顕讃賞」の受賞に浴されました。特に角谷さんは本県協会の女性としては初の受賞であります。御両氏とも本当におめでとうございます。これからも県協会に対しての御指導御協力のほど切にお願い致します。

## 静岡県体育協会功労章を受章して

静岡県バドミントン協会  
副会長 石川 博義

平成 22 年 5 月 27 日静岡市のホテルアソシアにて、第 51 回静岡県体育協会体育章贈与式が行われ私はバドミントン関係者として、体育功労章を他の 5 名の受章者の方々と共に贈与されました。

この顕彰制度は昭和 35 年に制定され、本県アマチュアスポーツ界の最高榮譽章と言われていています。このような名誉ある章を贈与されたことは、誠に身に余る光栄と思ひ感謝しております。

昭和 46 年に県立富士宮東高校バドミントン部の顧問を皮切りに、この世界に入って 40 年となりました。この間、県高体連バドミントン部委員長として、平成 3 年度全国高校総合体育大会を富士市で開催。県バドミントン協会理事長として、平成 14 年全国高校選抜バドミントン大会、平成 15 年第 58 回 NEW!! わかふじ国体を富士宮市にて開催。平成 18 年度ねりんピック静岡 2006 を富士宮市にて開催など大きな全国大会に関わりを持って参りましたが、何とか無事にその責任を果たして参る事が出来ました。これも偏に協会並びに関係各方面の皆様からの絶大なるご支援による賜であると感謝しております。

これからも、静岡県バドミントン協会並びにバドミントン界の発展のために微力ながら尽力して参りたいと思えますので、宜しくお願い致します。

